

短歌

むらさきの濃さも淡きも大輪の
群れ咲く川辺の肥後花菖蒲
納屋貸していつも見に行くツバメの巢
成長見守る巢立ちの日まで
雨待ちて羨びし野菜に降り出し来
みどり生き生き大きな背のび
非花の可憐なしろしる濡つ雨
梅雨のはしりとラジオの報ず
話すことひと言もなく一日過ぎ
布団にもぐり童謡うたう
もちの実も南天の実も一つなく
首をかしぐる裸木の山鳥

野中 慶子
村上 成章
荒木 智子
坂口志げ子
石山 幸子
池田たかお

かなしき原俳句会

日焼せし孫の談話の頼もしく
夏至の日の夕日眩しや普賢岳
苦瓜の支柱を立て、蔓配り
足裏の少しうれしき籐筵
納沙布の海を見て来し夏帽子

しん子
淑乃
きよみ
康子
弘子

自生して山路色どる著我の花
田蛙の声も肴の夕べかな
豊年を祈る宮司や青田風
検診の結果いまだに来ぬ梅雨籠り
三方を零る神饌や夏越祭

淑一
誠一
良一
謙三
貞子

菊水俳句会

喜雨の中あへて犬曳く男たり
一面の田水にそよぐ小苗かな
頬被り女も田植機に乗りて
あじさいの葉よりあをを雨蛙
送迎車植田の里に分け入りて
地上にも里の空あり田水張る

永田 紘彦
原 かよこ
池田 松子
中山ミサト
宮中ミスエ
宮中 康雄

肥後狂句会

盆踊り 浴衣の似合うひとだった
盆踊り むごう上手はうちの嫁
盆踊り 過疎の青春夢に出る
とぜんなか 写真眺めて話しかけ
とぜんなか テレビ相手じゃ物足らん
とぜんなか 何なと趣味の要るごたる
てれつとして 俺の嫁ごにや丁度よか
てれつとして 挨拶どまあせんかいた
てれつとして 脇見運転事故のもと

高木せいや
池田 茜
二瀬 桔梗
石原かわせみ
後藤 撫子
庄山 道草
福永すみれ
井上りんどう
瀬上 歌子

人権の窓 15

「先ずできることを認めて」

今年の六月四日、「不登校に学ぶフレンズ ネットワークくまもと」主催の講演会に参加しました。主催者の挨拶の中で、「フレンズ ネットワークは今年で二十周年を迎え、およそ八十名の会員で活動しています。『ありがとう不登校』という記念誌を発行しました。不登校には必ずトンネルの出口があります。不登校が悪いことだと思っている方には是非届きたい」と挨拶されました。

講師は、不登校経験者を積極的に受け入れ、個人に合った学習・就労支援に取り組む立花高校（福岡市）の齋藤眞人校長でした。

初めに、立花高校の紹介がありました。三五年前は全校生徒が三人の時代もありましたが、「不登校自立支援の学校」を打ち出したら、七年前に二〇〇人を超え、今年は約五〇〇人の生徒が在籍しています。立花高校は不登校を解決する学校ではなく、不登校の子もたちが安心して不登校でいられる学校なのです。

次に、一三年間に出会った生徒たちから学んでいることを話されました。

今年の一年生に、小学校一年からすべて不登校の生徒が入学してきました。立花高校は自分の名前が書ければ合格です。「えっ」と思われるかも知れませんが、この生徒が一步外に出て、高校で学ぼうと入試の日にどれだけ頑張つて登校したのか。そして、見知らぬ友だちの中で、どれだけ勇気を振り絞って自分の名前を書

いたのか。控室で待っているその子のお母さんに、「名前を書きましたよ」と告げると、お母さんが思わずハンカチで目を覆われました。子どもたちの小さな頑張りにどれだけ私たちが気づいているかなのです。

「先生、私に寄り添うよりお母さんを励まして」という子どもがいます。その子のお母さんは、重度のうつ病になられ、心療内科で一時間泣き続けられ、「やっと自分も頑張っていたことと、娘もきつと頑張っていたんだと気づけました」と話してくれました。そして、「待ってるよ、もうすぐ芽が出る、気がするよ」という素敵な詩を届けられました。お母さん方に、子どもたちに「学校に行かんでもあんたは大事な我が子だよ」というメッセージを送ってほしいのです。

立花高校では「できないこと」を基準にして考えます。例えば、週に一回しか学校に来ない子は一人もいませんが、週に一回がんばってやってくる子はたくさんいます。事実一つで、あとは大人の解釈です。週五日行くことが当たり前と思っていると、週に「一日しか」となりますが、ゼロを基準にすると、「一日頑張つて来れたね」になるんです。

講演会に参加して、子どものできないことを嘆くより、できていることを先ず認めることが大切であること。そして、問われているのは私たちの発想であり、私たちの感じ方、価値観の中に、「子どもたちがそこに存在していることの素晴らしさ」に目を向ける心のゆとりが必要だということがわかりました。

和水町人権教育指導員

緒方正雄

図書室 本紹介

中央公民館 だより



Message Card

限りある水資源についての関心と理解を深めるため、国は8月1日を「水の日」、8月1日から7日までの1週間を水の週間と定めています。水には恵まれている熊本ですが、ご家庭でも今一度、その使い方を考えるきっかけになればと思います。

『川をのぼって 森の中へ』

今森 光彦 著／(株)成成社



熱帯雨林を流れる大河をさかのぼる旅。川とともに生きる人々。珍しい動植物や昆虫、そして先住民タヤクの人々との出会い。「水の流れは、命の流れであることを実感した」という作者の、美しい写真で綴られたポルネオ紀行。親子で楽しめる一冊です。

『科学のアルバム 水くめぐる水のひみつ』

塚本 治弘 著／(株)あかね書房



豊富な水に包まれた惑星・地球。身近で忘れがちな「水」の、すばらしく雄大なはたらきを、四季を通して描き出します。「水」が地球規模で循環する様子を、科学的にわかりやすく解説しています。

『しずくのぼけん』

マリナ・テルリコフスカ 著／(株)福音館



バケツから、ぴしゃんと飛び出した水のしずくは冒険の旅へ！気温や場所によって変化する水の不思議を、子どもたちに親しみやすい「しずく」を主人公に描いた科学の絵本です。48年間読み継がれている良本です！

8月1日(火) から和水町商工会 10%プレミアム付商品券「なごみん」を販売します

商品名	10%プレミアム商品券「なごみん」	販売場所	①和水町商工会菊水本所 ②和水町商工会三加和支所
販売額	10,000円(1,000円×11枚綴)		窓口で1人当たり3セット、30,000円まで購入可能
販売総数	500セット		ただし、予約購入および代理購入は不可
販売日時	8月1日(火) 午前9時から販売開始 平日午前9時～午後5時 売切時点で終了	使用期限	8月1日(火)～12月31日(日)

問い合わせ先 和水町商工会菊水本所 ☎0968・86・2127
和水町商工会三加和支所 ☎0968・34・2051